

注意点1



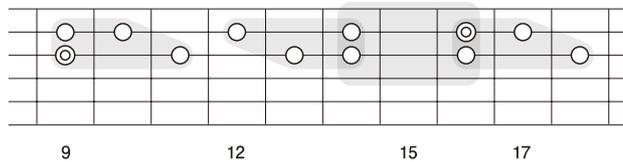
左手

スケール図を頭に叩き込んで人差指を正確に移動させよう!

この曲を攻略するためには、まず頻繁に登場する高速ハンマリング・フレーズをマスターすることが重要だ。基本的に2 & 3弦での高速移動プレイなので、ハンマリングの基準音になる人差指をしっかり移動&押弦することが大切になる。そのため2 & 3弦によるEメジャー・スケールを確認しながら、人差指の移動ポジションを覚えておこう(図1)。この曲では、ハンマリングのポジションは4音1セットになっているので、4音のブロックごとに覚えていくと良い。慣れるまでは、右図を見ながら人差指のポジション移動だけを何度も練習してみると効果的だ。

図1 ハンマリング・ポジション(Eメジャー・スケール)

◎トニック=E音



※4音1セットで覚えよう。

注意点2

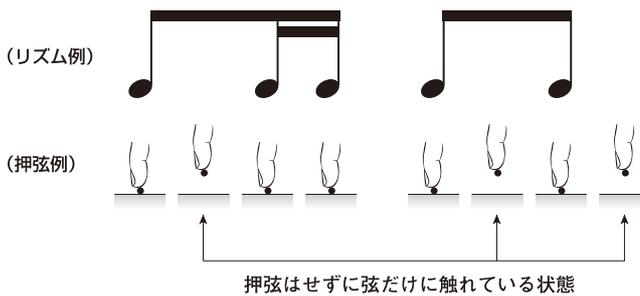


左手

軽快なノリを生み出す鍵は左手のミュートにあり!

この曲の有名なテーマ・メロディを弾くためには、16ビートを歯切れ良く刻むことがポイントになる。特に高音弦のメロディを響かせるためには、右手のブリッジ・ミュートだけではなく、左手のミュート(スタックカート)にも気を配ってほしい(図2)。16分音符が続く場合は押弦したままでも良いが、8分音符では押弦したまま音を伸ばすのではなく、指を軽く浮かせて左手で音を止めるとうまい。つまり8分音符では、発音した直後すぐに左指の力を抜き、弦に軽く触れてミュートする。この微妙な左手のコントロール[註]が、軽快なノリを生み出すのだ!

図2 左手のミュート方法



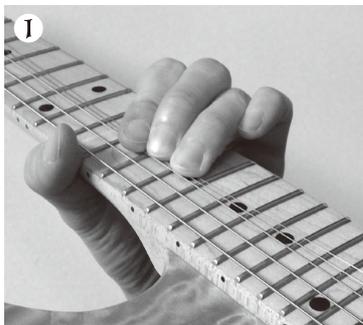
注意点3



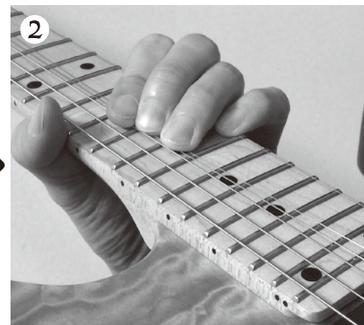
左手

左手の持久力が必要なハーモナイズド・チョーキング

【F】2小節目のハーモナイズド・チョーキングを解説しよう。ハーモナイズド・チョーキングは、チョーキングする弦としない別の弦を同時に鳴らして、ハーモニーを作る奏法だ。ここでは、まず薬指で2弦17フレットをチョーキングし、続いて小指で1弦17フレットを押弦する(写真①&②)。この状態で2本弦ともにピッキングしてハーモニーを鳴らすのだ。ここではビブラートもかけるので、特にチョーキングをキープする薬指の持久力が必要になる。ハーモナイズド・チョーキングにビブラートをかけると、チョーキングの音程が下がりやすいので、弦の上げ具合に気をつけて練習してほしい。



① 2弦17fを薬指でチョーキング。この時に1弦上空で次の小指の押弦準備をしておこう。



② 薬指のチョーキングを保ったまま、1弦17fを小指で押弦。この時に2音ともが鳴って複音になることがポイントだ。

【微妙な左手のコントロール】 超絶系を目指す者は、左手を速く動かすことばかりを追求しがちになる。しかし、押さえるだけではなく、微妙なミュートを行なうなどの細かいコントロール力を養う必要もあるのだ!